

項目別評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。

(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院

中期目標	ア 救急医療 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。
	イ がん医療 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、高度で先進的ながん医療を提供すること。
	ウ 周産期医療 広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊娠婦や新生児への周産期医療を提供すること。
	エ 災害医療 災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療を提供するとともに、災害医療における中心的な役割を果たすこと。
	オ へき地医療 安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市北部地域のみならず、県北西部地域等を対象とした中核病院として、関係医療機関に対する診療や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置				
1 市立病院として担うべき医療 <u>(大項目)</u> それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。	1 市立病院として担うべき医療 <u>(大項目)</u>				
(1) 広島市民病院	(1) 広島市民病院				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価										
	年度計画	評価理由等				記号	評価理由・コメント等	記号									
<p>ア 救急医療の提供（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 ・受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院としての運営に取り組みます。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 	<p>ア 救急医療の提供（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供 ・救急医療コントロール機能病院としての運営 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営（救急相談センター及び広島市医師会千田町夜間急病センターとの連携など） 	<p>【一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一次から三次までの救急医療を24時間365日提供し、令和3年度は救急患者22,022人（救急車7,167台、ウォークイン14,855人）を受け入れた。 <p>【救急医療コントロール機能病院の運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者の転院受入れを行う支援病院（32病院）と連携を取りながら、受入困難事案の救急患者を受け入れた。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>平成31年</th> <th>令和2年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入困難事案の受入人数</td> <td>165人</td> <td>246人</td> <td>217人</td> <td>186人</td> <td>216人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【一次救急医療の提供体制の適切な運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 軽症患者診療の分散を推奨するため、院内でのポスター掲示や救急外来でリーフレット等を配布することにより救急相談センター及び千田町夜間急病センターの案内を行うとともに、患者からの待ち時間等についての問合せには電話確認などで対応し、連携を図った。 	区分	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人	186人	216人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年												
受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人	186人	216人												

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
イ がん診療機能の充実（小項目） ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・化学療法のニーズに対応できるよう、通院治療センターの体制等の充実を図ります。 ・「広島がん高精度放射線治療センター」と連携して質の高い医療を提供します。	イ がん診療機能の充実（小項目） ・手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた集学的治療の実施 ・緩和ケアセンター機能の充実 ・「がんゲノム医療センター」の開設に向けた検討 ・がんに関する様々な情報の提供（研修会の開催、がん教育の実施）	<p>【手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた治療の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、キャンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術方法、手術後の化学療法、放射線治療などについて協議し、患者にとって最良の治療方法の検討を行った。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のキャンサーボードを行った。 ○ 新規に保険適用されたロボット手術としては、腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術の施設基準を取得、実施し、手術の適用の範囲を広げた。 <p>【緩和ケアセンター機能の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緩和ケア科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師、管理栄養士、医療相談員で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体のつらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。 ○ 緩和ケアチームと緩和ケア外来、緩和ケア面談・浮腫外来が連携し、患者の全人的苦痛（患者が経験する様々な苦痛）の軽減を図った。 ○ 緩和ケア外来では、令和3年度に初診76件、再診642件の診療を行い、診療件数の増を図った（令和2年度は初診74件、再診559件）。 <p>【がんゲノム診療センターの開設に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遺伝子検査から治療までを行うがんゲノム医療を円滑に進めていくため「遺伝子診療科」、「がんゲノム診療科」、「がん遺伝相談外来」を合わせた「がんゲノム診療センター」開設の検討を進め、名称を「遺伝子診療科」とし、令和4年4月に開設した。 <p>【がんに関する様々な情報の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療情報サロンにおいて、がんに関する図書等の情報を常時更新し、閲覧ができるようにしている。 ○ 医療情報サロンにおいて、がん患者の家族を対象に講演会「がんとともにこころのサロン」を年5回WE B開催（延べ28人参加）した。 ○ ホームページにがん治療に関する情報等を掲載し、周知を図った。 ○ 医療者がん研修会（年6回）、がんセミナー（年5回）、緩和ケア研修会（年1回）を、WE B開催を取り入れながら定期的に開催した。 ○ 医療支援センター内のがん相談支援センター・緩和ケアセンターにおいて、 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・「広島がん高精度放射線治療センター」との連携 	<p>がん患者やその家族から延べ 1,749 件の相談に応じた。</p> <p>【高精度放射線治療センターとの連携】</p> <p>○ 広島がん高精度放射線治療センター（H I P R A C）の要員として、診療放射線技師 1 人を引き続き派遣した。また、令和 3 年度には 68 人の患者紹介を行った（令和 2 年度は 68 人）。</p>			
ウ 周産期医療の提供（小項目） 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	<u>ウ 周産期医療の提供（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・総合周産期母子医療センターの運営 ・無痛分娩の実施 	<p>【総合周産期母子医療センターの運営】</p> <p>○ 新生児部門は、N I C U（新生児集中治療室）9 床、G C U（新生児治療回復室）24 床で運営し、令和 3 年度は 397 人の入院があった。</p> <p>○ 産科部門は、一般病床 36 床で運営し、令和 3 年度は 907 件の出産（うち異常分娩 515 件）であった。</p> <p>○ 帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備し令和元年 11 月から運用を開始して、令和 3 年度は 75 件の手術を実施した。</p> <p>【無痛分娩の実施】</p> <p>○ 無痛分娩に係る料金設定を行い、令和 4 年 3 月に 1 例を実施した。</p> <p>【新型コロナウイルスに感染した妊産婦の受入】</p> <p>○ 令和 4 年 1 月から、広島県の調整する「妊産婦のコロナ輪番」に広島市民病院も加わり、妊産婦の陽性患者の受入を開始した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
エ 災害医療の提供（小項目） ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市灾害等に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、	<u>エ 災害医療の提供（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 ・災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <p>○ 災害時に備え、外部固定アンテナを有する衛星電話と衛星インターネット回線を整備し、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に取り組み、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を維持した。</p> <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、広島県看護協会主催の講習会は開催されなかったが、令和 3 年度は、災害支援ナースとして 31 人の登録となつた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																						
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																					
広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・ DMA T（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施 ・ DMA T（災害派遣医療チーム）の派遣、スタッフの育成 	<p>【業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机上での災害対策本部運営実施訓練を行った。また、災害拠点病院の指定要件である外部固定アンテナを有する衛星電話と衛星インターネット回線を整備するとともに、職員の参集ルール等の見直しを行い業務継続計画（B C P）の改訂を行った。 <p>【DMA Tの派遣、スタッフの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年8月の大震災の際、広島県の要請を受けDMA T隊員（医師1人、看護師1人、診療放射線技師1人）が、浸水被害を受けた病院支援に向けた準備を行った。 ○ 「広島県DMA Tプラッシュアップ研修（全3回）」に医師1人が延べ3回、診療放射線技師1人が延べ1回参加した。 ○ 「DMA T技能維持研修（e ラーニング）」に医師3人、看護師5人、診療放射線技師1人、薬剤師1人、臨床検査技師1人が参加した。 ○ 令和3年度から新たに始まった「広島県J-S P E E D研修（ファシリテーター養成コース）」に医師1人が参加した。 																																										
才 低侵襲手術等の拡充（小項目） 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の活用やカテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリット手術室の運用を進め、患者の身体的負担が少ない手術等を拡充します。	才 低侵襲手術等の拡充（小項目） ・ 患者の身体的負担の少ない内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進	<p>【内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を2,227件行った。 <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">内視鏡手術</td> <td>1,934</td> <td>2,060</td> <td>2,148</td> <td>1,848</td> <td>1,943</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内視鏡的治療(ESD)</td> <td>食道</td> <td>51</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>35</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>264</td> <td>192</td> <td>197</td> <td>139</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>88</td> <td>83</td> <td>48</td> <td>64</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>403</td> <td>331</td> <td>301</td> <td>238</td> <td>284</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規に保険適用されたロボット手術として、腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術の施設基準を取得し、実施した。 	区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	内視鏡手術		1,934	2,060	2,148	1,848	1,943	内視鏡的治療(ESD)	食道	51	56	56	35	51	胃	264	192	197	139	162	大腸	88	83	48	64	71	計	403	331	301	238	284	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																						
内視鏡手術		1,934	2,060	2,148	1,848	1,943																																						
内視鏡的治療(ESD)	食道	51	56	56	35	51																																						
	胃	264	192	197	139	162																																						
	大腸	88	83	48	64	71																																						
計	403	331	301	238	284																																							

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価													
	年度計画	評価理由等						記号	評価理由・コメント等	記号											
		(件)																			
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術 (ダヴィンチ)</td> <td>112</td> <td>109</td> <td>143</td> <td>262</td> <td>286</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	112	109	143	262	286							
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																
内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	112	109	143	262	286																
力 中央棟設備の老朽化への対応（小項目） 救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等、病院の中枢機能が集中する中央棟は、築後25年を経過し、建物設備の老朽化が進行していることから、計画的な改修など、老朽化への対応を行います。	力 中央棟設備の老朽化への対応（小項目）	<p>【中央棟設備の改修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電機改修 ・無停電電源装置改修 ・昇降機（3号機）改修 ・炉筒煙管ボイラー改修 <p>○ 非常用発電機については、仮設する非常用発電機の設置検討に時間を要したことから令和4年度に実施することにした。 ○ 無停電電源装置を改修した。 工期：令和2年12月3日～令和3年4月15日 ○ 昇降機（3号機）を改修した。 工期：令和3年9月6日～令和4年2月28日 ○ 地下2階の炉筒煙管ボイラーを改修した。 工期：令和2年11月20日～令和3年11月30日</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																
キ その他（小項目） (ア) 脳血管内治療体制の充実 ・「脳卒中センター」を開設し、脳神経外科・脳血管内治療科、脳神経内科が脳卒中の初療から協力して診療を行う体制の充実 (イ) 新型コロナウイルス感染症への対応 ・高度急性期病院の役割を維持しながら新型コロナウイルス感染症への適切な対応	<p>【脳血管内治療体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年4月1日に「脳卒中センター（院内標準）」を救命救急センター内に開設することで、脳神経外科・脳血管内治療科と脳神経内科が脳卒中の初期段階から協力して医療を提供できる体制を確保した。 <p>【新型コロナウイルス感染症への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染患者を受け入れるための専用病棟を設け、令和3年度は延べ2,921人の入院患者を受け入れた。 																				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 安佐市民病院	(2) 安佐市民病院				
<u>ア 救急医療の提供（小項目）</u> ・県北西部地域等の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。	<u>ア 救急医療の提供（小項目）</u> ・県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営（安佐医師会可部夜間急病センターとの連携など） ・高齢の救急患者の自立・退院調整に向けた早期介入支援及び介護情報の共有体制強化（医療ソーシャルワーカー、退院調整看護師、医療クラークの配置等）	<p>【実質的な三次救急医療を 24 時間 365 日体制で提供】</p> <p>○ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を 24 時間 365 日体制で提供し、令和 3 年度は、救急車 5,028 台、救急患者 10,927 人を受け入れた。</p> <p>【一次救急医療の提供体制の適切な運営】</p> <p>○ 令和 3 年度に安佐市民病院が受け入れた一次救急患者数は、1 日当たり 2.4 人で、安佐医師会可部夜間急病センター開設以前の平成 22 年度の 4.5 人と比べ 2.1 人減となった。また、同センターが受け入れた令和 3 年度の 1 日当たりの患者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり 2.4 人と減少したが、同センターと連携して適切に運営を行った。</p> <p>【高齢救急患者への早期介入支援及び介護情報の共有体制強化】</p> <p>○ 救急外来（中央処置室）に救急担当の医療ソーシャルワーカーが平日の日中に常駐し、高齢の救急患者の生活背景、社会資源利用の有無などを情報収集するとともに、速やかにケアマネージャーと連携して入院時からの早期退院支援を行った。</p> <p>また、入院後は病棟担当の医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師が情報共有し、円滑なベッドコントロールを行う PFM (Patient flow management) の推進により、患者及び家族が満足する医療・介護を提供しながら、在院日数の短縮を進めた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>イ がん診療機能の充実（小項目）</u> ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばく	<u>イ がん診療機能の充実（小項目）</u> ・手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療と緩和ケアの実施	<p>【手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療と緩和ケアの実施】</p> <p>○ キャンサーボードを毎週開催し（令和 3 年度 15 件）、手術や化学療法、放射線治療などについて協議し、これらを適切に組み合わせた治療と緩和ケアを着実に行なった。また、月に数回、院外専門家の意見を聴きながら実施した。</p> <p>○ 特に外来での化学療法については、手術や入院治療に比べ患者の負担が軽減されることや新しい薬剤の登場により適用対象が拡大したことから、積極的に取組んでおり、令和 3 年度の延べ件数は 7,204 件と令和 2 年度の 6,784 件から 420 件増加した。</p>	4	化学療法や最新の機器による診断に積極的に取り組み、さらに女性医師の増員や女性専用病棟の設置による入院環境の整備など、年度計画を上回っていると認められるため、「4」と評価した。	4

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
CTを活用し、精度の高い診断を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん診療の充実 ・MR I 対応 3D超音波診断装置による前立腺がんの安全かつ効率的な診断 ・AIを活用した大腸内視鏡検査での診断精度向上と検査医の負担軽減 ・精密検査から治療までのワンストップ二次精密健診の検討 ・健診者からのWEB予約による二次検査・治療体制の充実 ・外来化学療法センターの機能充実（治療ベット数の増加等） ・PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくCTを活用した精度 	<p>【乳がん診療の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性職員による外来診療体制を充実強化するため、令和3年度に乳腺専門の女性医師を1人増員し、超音波及び乳腺撮影の検査を行った。また、女性患者の専用病棟を設置し、入院環境を整備した。なお、当院の乳がん登録について、新型コロナウイルス感染症などの影響により、令和3年度が129件となり、令和2年度の127件と比べて、僅かな増加にとどまった。 <p>【MR I 対応 3D超音波診断装置による前立腺がんの安全かつ効率的な診断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早期がんに対する病変の同定が確実に行えるMR I 対応 3D超音波診断装置を令和3年8月に導入（広島県内2施設目）し、令和3年度末までに70例を行った。 <p>【AIを活用した大腸内視鏡検査での診断精度向上と検査医の負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ AIの活用により大腸腫瘍発見率が10%向上した。更に、内視鏡経験が長い検査医のAI活用は大腸腫瘍発見率が高くなり、負担軽減につながっている。 <p>【精密検査から治療までのワンストップ二次精密健診の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワンストップ二次精密検査を令和3年度に262件（肺がん24件、肝がん41件、乳がん35件、胃がん36件、大腸がん126件）実施した。そのうち、治療が必要な件数は50件（肺がん1件、肝がん1件、乳がん2件、胃がん1件、大腸がん45件）であった。 <p>【健診者からのWEB予約による二次検査・治療体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乳がん、肺がん、肝がん、胃がん、大腸がんに係る健診者の二次精密検査について、WEBを用いた予約体制を構築した。 <p>【外来化学療法センターの機能充実（治療ベット数の増加等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来化学療法センターでの治療患者数増加に対応するため治療ベッド数を13ベッドから15ベッドに増床した。また、治療中の患者の採血を同センターで行うことにより業務の円滑化及びサービスの向上を図った。 <p>【PET-CTや低被ばくCTを活用した精度の高い診断の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度は、PET-CTの撮影を1,295件、CT（PET-CTを除く。）の撮影を30,786件を行い、がんの早期発見、転移や再発について、精度の高い診断を行った。 				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<p>の高い診断の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学療法患者に対する医科・歯科連携の実施 ・がんゲノム診療科を中心としたがんゲノム医療の提供 	<p>【化学療法患者の頸骨壊死の早期発見を目指した歯科連携の実施】</p> <p>○ 平成 30 年 4 月 1 日より、骨吸収抑制薬使用患者の地域連携バスの運用を開始しており、安佐市民病院で口腔管理を行っている患者数は 132 人で、令和 3 年度はそのうち 4 人について地域の歯科医院と連携を実施した。また、院内で 6 人の頸骨壊死を早期に発見することができた。</p> <p>【がんゲノム診療科を中心としたがんゲノム医療の提供】</p> <p>○ 令和 2 年 4 月から「がんゲノム診療科」を開設し、がんゲノム医療を提供している。令和 3 年度はパネル検査提出 45 件、解析成功率 96%(43 件)、推奨治療提示 31 件、推奨治療実施件数 6 例(治療到達率 14%)であった。また、二次的所見から遺伝カウンセリングが推奨された 8 例のうち 2 例のカウンセリングを実施した。</p>				
ウ 災害医療の提供（小項目）	<p>・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。</p> <p>・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。</p> <p>・DMA T の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</p>	<p>ウ 災害医療の提供（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 ・災害時に迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保するため、業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施 ・災害その他の緊急時における適切な医療救護活動の実施 ・DMA T の派遣要請に基づく被災地へ医師等の派遣 	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <p>○ 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を維持した。</p> <p>【業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施】</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響により大規模な研修や訓練を実施することは困難であったが、計画に基づき小規模な人員で実施した。</p> <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <p>○ 令和 3 年度は、災害支援ナースとして 7 人の登録となつた。</p> <p>○ 令和 3 年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催による DMA T (災害派遣医療チーム) の研修に医師、看護師及び業務調整員（事務職）が参加した。</p> <p>【DMA T の派遣】</p> <p>○ 令和 3 年度は派遣要請が無かつたため、活動の実績はなかった。また、新型コロナウイルス感染症により活動が制約される中、DMA T 隊員を中心とした災害対策チーム会において、災害対策の検討などの取組を行つた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
<u>エ へき地医療の支援（小項目）</u> ・へき地医療拠点病院として、市北部地域のみならず、県北西部地域等の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 ・県北西部地域等の医療従事者に対する研修の提供やWEB会議システムの活用により診療の質の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。	<u>エ へき地医療の支援（小項目）</u> ・「広島県北西部地域医療連携センター」において、地域の医療提供体制維持の後方支援の継続と、多職種の人材育成の推進 ・ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進	<p>【地域の医療提供体制維持の後方支援と人材育成の推進】</p> <p>○ 令和元年9月に広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、研修や派遣等の支援を充実させた。具体的には、令和2年12月から、芸北地域の医師会（安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会）で、総合医として地域医療を支える若い医師を対象に、外部講師に依頼してオンラインで研修会を実施し、人材育成の推進を図った。</p> <p>また、安芸太田病院に宿直支援を実施し、安芸太田病院、豊平診療所、雄鹿原診療所、市立三次中央病院、庄原赤十字病院、公立邑智病院に、医師派遣を実施した。</p> <p>さらに安芸太田病院に対して広島大学ふるさと枠医師派遣による専門医研修を行っており、毎週、WEBカンファレンスによる診療支援を実施している。なお、同院には医師だけでなく、看護師、薬剤師、理学療法士などの多職種の視察、交流を行なながら、実施可能な支援を行っている。</p> <p>【ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進】</p> <p>○ 安芸太田病院の遠隔画像読影を1日2件から6件実施した。令和3年度は総数510件の遠隔読影を行い、令和2年度の156件と比べて大きく増加した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3
<u>オ 低侵襲手術の拡充等（小項目）</u> 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大や心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進等を行います。	<u>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</u> ・内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大及び啓発・広報活動の強化 ・MICS（小切開低侵襲心臓手術）、自己心膜を用	<p>【内視鏡下手術用ロボットを活用した手術件数の増加】</p> <p>○ 令和3年度は泌尿器科領域において、腎がん22件、前立腺がん97件、膀胱がん13件のロボット支援下手術を実施した（令和2年度は腎がん17件、前立腺がん83件、膀胱がん12件実施）。</p> <p>○ 令和元年6月に胃がんに対する腹腔鏡下胃全摘、令和元年12月に直腸がんに対する腹腔鏡下直腸切除・切断術の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了し、保険適用となった各手術を引き続き実施した（令和3年度末時点で胃がん延べ42件、直腸がん延べ66件実施）。</p> <p>○ 令和3年1月に子宮腫瘍に対する腹腔鏡下膣式子宮全摘の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了し、保険適用となった（令和3年度末時点で延べ23件実施）。</p> <p>【MICS（小切開低侵襲心臓手術）、自己心膜を用いた大動脈弁形成術の推進】</p> <p>○ 令和3年度に行った心臓弁膜症に対する手術30件のうち、大動脈弁疾患と</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
	<p>いた大動脈弁形成術の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術の推進 ・腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術の推進 ・プロクター制度（ロボット支援手術の指導医認定制度）に則ったロボット手術術者の育成 	<p>僧帽弁疾患がそれぞれ 15 件ずつあった。このうち大動脈弁疾患については自己心膜を用いた大動脈弁形成術を 4 件、僧帽弁疾患については M I C S を 8 件実施した。</p> <p>【経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 胃粘膜下腫瘍（SMT）に対して経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術を 2 例実施した。 <p>【腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 低侵襲手術を推進するため、呼吸器外科（187 件）、食道外科（7 件）領域では、ほぼ全例で胸腔鏡を用いた手術とし、腹部手術（1,573 件）では腹腔鏡を使用した手術を 528 件実施した。また、ロボット支援手術では適応症例を拡大し、泌尿器科（前立腺がん 95 件、腎がん 32 件、膀胱がん 13 件）、消化器外科（胃がん 24 件、直腸がん 40 件）の症例が増加している。産婦人科では、子宮良性疾患手術（12 件）に加えて、令和 3 年度は子宮体がんに対する手術（10 件）を開始した。新病院においては、食道がん、肺がん、縦隔腫瘍、膵臓がんに対する手術が行えるよう準備を進めている。 <p>【プロクター制度に則ったロボット手術術者の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 3 年度に 2 人がロボット支援手術プロクター資格を取得するとともに、2 人のロボット手術術者を新たに育成した。 		
<u>力 新病院での新たな取組の検討（小項目）</u> 新病院における高度で先進的な医療の実施・拡充等を検討するとともに、その体制づくりや関連業務の検討を行います。	<u>力 新病院での新たな取組の検討（小項目）</u> 広島市北部医療センター安佐市民病院開設準備室において、以下の項目を検討及び開設準備 <ul style="list-style-type: none"> ・地域救命救急センターの整備 	令和 2 年 6 月に設置した広島市立北部医療センター開設準備室で検討していた以下の項目について引き続き検討を進めた。また、令和 3 年 11 月には、診療機能、患者移送、物品移送、情報管理、電子カルテ運用、全体リハーサルの 6 つのグループに区分し、移転開設事務を具体的に進めた。 <p>【地域救命救急センターの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院への地域救命救急センター整備に向けて、令和 4 年 2 月に救急医 1 人を増員した。（令和 4 年度は救急医を 2 人増員する予定である。）また、広島県とセンター設置の協議を行い、令和 4 年 5 月 1 日付けで設置が認められた。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来のセンター化によるチーム医療体制の充実 ・外来予約枠の整理、呼び出しシステム等の導入による「待たせない外来」の実現 ・身体合併症をもつ精神疾患患者に対応する精神病床の整備 ・循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チーム（ハートチーム）による医療の推進 ・外来で行うがん治療に関する部門を集約して設置される通院治療センターの運用 ・IOTを活用した看護業務の効率化 	<p>【外来のセンター化によるチーム医療体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来WGにおいて、関連する診療科を7ブロック（脳心血管疾患先進医療センター、整形外科・顎微鏡脊椎脊髄センター、消化器センター、呼吸器センター、感覚器・アレルギーセンター、低侵襲手術センター、通院治療センター）に集約配置し、外来のセンター化を図ることとした。 <p>【呼び出しシステム等の導入による「待たせない外来」の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来WGにおいて、外来診察予約基本ルールとして①適正な時間枠と診察患者人数の設定②診療内容により適正な時間枠を確保③再診、地域連携枠、コンサルテーション枠の調整④診察可能開始時間前の予約としない⑤検査部門の連携による患者導線の効率化等を検討し、「待たせない外来」を実現することとした。 <p>【身体合併症をもつ精神疾患患者に対応する精神病床の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科病棟の入院患者像の検討等を行った。 <p>【循環器内科と心臓血管外科の心臓疾患チームによる医療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 循環器内科・心臓血管外科医師、生理検査技師による心臓血管超音波検査カンファレンスの毎週実施、循環器内科・心臓血管外科・放射線診断科医師、放射線科看護師、臨床工学技士による腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術前カンファレンスの実施により、患者の生活背景や手術時に留意すべき事項を共有している。 <p>【外来で行うがん治療に関する部門の集約及び運用の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん治療に関する部門を集約し、複合的な業務を的確に実施できるよう運用等について検討を行った。 <p>【IOTを活用した看護業務の効率化の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の入眠状況の把握により、転倒・転落予防を図ることを目的としたスマートベッドや、タイムリーかつ誤りや漏れのない記録の実現に向けて、患者のバイタルデータ等を自動送信することが可能となるポケットチャートを、新病院のNFC連携機能として導入することを検討した。 				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド手術室を含む、手術室の効率的な運用 ・新病院で提供する医療に適した医療機器の整備 ・ダウンサイ징後の病棟運用シミュレーション及び運用マニュアルの策定 ・情報システム統合による一元管理、各種医療機器の一元管理の検討 ・救急部門、外来部門から中央処置室への入室に伴う運用の策定 ・画像診断支援を目的としたAI（人工知能画像診断）の導入検討 	<p>【ハイブリッド手術室を含む、手術室の効率的な運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手術枠の見直し、医師の学会参加などで手術ができない場合の情報共有を行い、予定手術の効率化を図った。手術間のインターバルの短縮、手術の準備等に関するS P D（院内物流管理業務）業者や業務員との協力体制などにより、手術時間を短縮した。 <p>【新病院で提供する医療に適した医療機器の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機器WGにおいて、及び病院長ヒアリングを行い、各部署で整備が必要な機器（手術用ロボット、A Pシステム等）を確定し、順次、購入・整備した。 <p>【ダウンサイ징後の病棟運用シミュレーション及びマニュアルの策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現病院の病床をダウンサイ징し、新病院の13病棟に分割するため、各科の将来患者像・患者数動向をシミュレーションし、各病棟を救急疾患患者対応病棟、予定手術患者対応病棟、がんの放射線・薬物療法に対応する病棟などに機能分化し、必要な人員配置と運用マニュアルを策定した。 <p>【情報システム統合による一元管理、各種医療機器の一元管理の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合診療支援プラットフォーム(CITA Clinical Finder)を導入し、電子カルテ、放射線、内視鏡など病院内の各システムのデータの一元化を図った。 今後、院内にある全ての『超音波診断装置』についても臨床検査部で一元管理を行い、稼働率の把握などを実施していく。 <p>【救急部門、外来部門から中央処置室への入室に伴う運用の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者は中央処置室で診療を行っているため、平日の日中は内科医による救急総合診療部体制を整備している。 このため、外来受診患者で処置が必要となった患者については中央処置室で処置を行い、緊急内視鏡や血管内治療が必要な患者については中央処置室から各部門へ搬送し緊急治療の後に入院病棟へ申し送りしている。 また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、レッドゾーン、グリーンゾーンに分け、外来受診患者も含めて診察する運用で院内クラスター発生を防止してきた。 <p>【画像診断支援を目的としたAI（人工知能画像診断）の導入検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院の新しい画像サーバーに対応させるため、Deep Learning技術等を利用したAI診断が可能なシステムを導入することとした。 				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p><u>キ その他（小項目）</u></p> <p>(ア) リハビリテーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期病院としてのリハビリテーションの提供 ・転倒転落及び窒息、誤嚥に対する早期介入 ・医師、看護師等の多職種が共同して作成するリハビリテーション総合計画の積極的な活用 	<p>【高度急性期病院としてのリハビリテーションの提供】</p> <p>○ リハビリテーション処方の翌日までにほぼ全ての患者への早期介入が実施できる体制を整えている。また、ICU病棟及び循環器病棟には専従・専任理学療法士を配置し重症患者に対する多職種協働による早期リハビリテーションを実施している。各病棟には窓口担当療法士を配置し、リハビリテーションに関する医師、看護師等からの相談等を受けやすい環境を築いている。</p> <p>【転倒転落及び窒息、誤嚥に対する早期介入】</p> <p>① 転倒・転落予防</p> <p>全ての転倒・転落事例の分析を行い、再発予防策を科内会議で検討した。定期的な「転倒・転落ニュース」、必要に応じた病棟看護師とのカンファレンスを通じて、安全な療養環境の設定を提案している。また、「標準予防策」を策定し、全病院職員に周知し、転倒・転落予防に努めた。結果、令和3年度は、事象レベル3b（骨折など）以上の発生は、令和2年度より減少した（11件→9件）。転倒・転落発生率は令和3年4月に4.4%であったのが3月には2.5%に低下した。</p> <p>② 誤嚥・窒息予防</p> <p>緊急入院患者に対して、嚥下障害のリスク判定を医師、看護師が実施し、嚥下造影検査（VF）を行う「レッド」、スクリーニング検査を行う「イエロー」、「リスクなし」に3分類化した。</p> <p>言語聴覚士が介入したVF対応の結果、年間VF件数は1,789件となり、過去5年間毎年発生していたレベル3a（中等度）以上の重大な事故は起こっておらず、入院後の食事が原因で誤嚥性肺炎を発症したのは1例のみ、レベル2（軽度）の窒息事例は2例であった。</p> <p>【リハビリテーション総合計画の積極的な活用】</p> <p>○ 入院早期の段階で各科ごとにカンファレンスを実施し、多職種で共同して急性期から回復期、維持期、自宅までを見越した計画書を作成している。作成した計画書は療法士が家族に説明している。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(イ) 専門外来の実施 ・医療ニーズに応じた専門外来の実施（特定行為看護師の専門外来の実施）	【医療ニーズに応じた専門外来の実施】 ○ 特定行為研修修了者による糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導を毎週木曜日に実施した。令和3年度の実施患者数は172人、延べ実施回数は592回であった。また、認定看護師によるがん患者の指導相談939件、助産師による助産外来222件、認定看護師による専門外来として、ストーマ外来340件、もの忘れ外来515件、心不全外来136件、リンパ浮腫外来86件（病棟往診を含む）を実施した（令和2年度は、糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導実施患者は、132人、延べ実施回数538件、がん患者の指導相談842件、助産外来201件、ストーマ外来339件、もの忘れ外来446件、心不全外来106件、リンパ浮腫外来61件（病棟往診を含む））。				
・薬剤師外来実施に向けての取組	【薬剤師外来実施に向けての取組】 ○ がん専門薬剤師及び認定薬剤師が空きスペースを利用して822件（令和2年度は804件）の患者に指導を行った また、週1回月曜日の午前中に医師の診療前に患者面談を行う「薬剤師外来」を160件行った。				
(ウ) 地域講演会の実施 ・アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催継続	【アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催】 ○ アドバンス・ケア・プランニングに関する医療従事者向けの講演会を令和3年7月13日にWEB開催した。 ※ アドバンス・ケア・プランニング：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、将来、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ、終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うことや、意思決定が出来なくなったときに備えて、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセス				
・各診療科による情報発信のための講演会の開催（オンラインでも参加できるハイブリッド形式の実施）	【各診療科による情報発信のための講演会の開催】 ○ 各診療科からの情報発信としてオンラインで参加が可能な講演会（ハイブリッド形式）を定期的に開催している。				
(エ) 栄養管理の充実 ・入院前からの適切な栄養摂取のための栄養指導介入	【入院前からの適切な栄養摂取のための栄養指導介入】 ○ 侵襲の大きな術前の患者や入院前の高血糖状態など栄養管理が必要な患者				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の栄養指導の実施 ・低栄養対策の栄養指導の強化 <ul style="list-style-type: none"> (才) 新型コロナウイルス感染症への対応 ・感染症協力医療機関としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応 	<p>について、栄養室が介入し、栄養管理の必要性の説明や食事接種方法の提案を行った。</p> <p>【退院後の栄養指導の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主に胃や腸の切除後での入院時栄養指導を行っている患者は、退院後、初回時の外来に食事摂取状況の確認等の栄養指導を実施している。また、他の疾患においても必要に応じて指導を行っている。 <p>【低栄養対策の栄養指導の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入院時の栄養管理計画書で患者の抽出を行い、必要時に病棟訪問、食事調整等を実施している。外来時も医師や患者からの依頼により、個々の状態に合わせた栄養摂取の方法を提案している。 <p>【新型コロナウイルス感染症への適切な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の対応として入院診療、CTトリアージ外来、発熱外来（休日・夜間の新型コロナウイルス感染症患者入院受入医療機関）、職員発熱外来を実施した。 地域住民、職員に対して安佐医師会、広島県看護協会、安佐薬剤師会と協力してワクチン接種を積極的に実施した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(3) 舟入市民病院

中期目標	ア 小児救急医療等、小児専門医療 小児救急医療拠点病院として、小児科の24時間365日救急診療を行うとともに、初期救急医療機関及び二次救急医療機関としての医療を提供すること。また、年末年始救急診療等を引き続き実施するとともに、小児診療に特長のある病院として小児心療科等の小児専門医療の充実を図ること。
	イ 感染症医療 広島二次保健医療圏における第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。
	ウ 障害児（者）医療 医療的なケアが必要な重症心身障害児（者）の受入体制の充実を図るとともに、障害児（者）に対する診療相談機能を整備すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(3) 舟入市民病院	(3) 舟入市民病院			
ア 小児救急医療の提供（小項目） ・小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携を図ります。 ・トリアージナースの能力向上を図り、診療体制の強化に取り組みます。	ア 小児救急医療の提供（小項目） ・小児救急医療を24時間365日体制で提供 ・市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携 ・トリアージナースの能力向上のための研修実施	【小児救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 令和3年度においても、医師会や広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急医療を実施した。 【市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携】 ○ 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し（26人）、一方で三次救急医療機関からも積極的に受け入れる（28人）などの連携を図った。 【トリアージナースの能力向上のための研修実施】 ○ 令和3年度においても、トリアージナース育成に関する研修やフォローアップ研修などを実施し、トリアージナースの能力の向上を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
イ 小児専門医療の充実（小項目） 小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法に加え、未治療者や治療中断者の重症化防止のための支援について検討を行います。また、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療の充実を図ります。	イ 小児専門医療の充実(小項目) ・小児科入院患者に対する小児心療科のフォローランスの充実に向けた検討	【小児科入院患者に対する小児心療科のフォローランスの充実に向けた検討】 ○ 小児科入院患者に対し、科内カンファレンスや病棟カンファレンスを実施し、小児科医と病棟スタッフとの連携を行った。 ○ また、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3
ウ 感染症医療の提供（小項目） ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（S A R S）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時には、市立病院を始めとする市内の関連病院と連携して対応します。 ・感染症専門資格の取得などを教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。	ウ 感染症医療の提供（小項目） ・第二種感染症指定医療機関としての病院運営 ・感染症医療に関する専門性の向上	【第二種感染症指定医療機関としての病院運営】 ○ 第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、県や市、近隣の病院等と連携し、受入体制を強化した。 感染症患者の増加に伴い、6階病棟のみでなく5階病棟もコロナ対応として運営（令和3年5月18日～6月17日）し、受入れ病床を拡大（34床→64床）して対応した。また、受入体制を強化するため、手術、原爆ドック、障害児者レスパイトに関しては、人数制限を行い対応するとともに、コロナ陽性者や発熱外来の受診者が増加した際には、一般患者の感染のリスクを考慮し、内科外来を2階の旧健康管理センターで、外科外来を5階病棟（5階病棟閉鎖時）で行った。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の入院実患者1,145人、延べ入院患者7,689人（疑い患者を含む。）を受け入れた。 【感染症医療に関する専門性の向上】 ○ 感染制御認定薬剤師（B C P I C）の資格の取得又は更新をするため、感染制御専門薬剤師講習会へ2人参加した。 また、抗菌化学療法認定薬剤師の資格取得のため、抗菌化学療法認定薬剤師講習会へ2人参加したほか、医師1人、看護師1人が日本環境感染症学会学術講演会等にオンラインで参加した。	5	新型コロナウイルス感染拡大時には、感染症患者の受入病床を拡大し、令和2年度以上に多くの患者に対応した。さらに、発熱外来や陽性者外来の受入体制を強化するなど、その取組が年度計画を大幅に上回っていると認められるため、「5」と評価した。 5

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用 ・渡航者外来の運用 ・新型コロナウイルスの感染症患者への適切な対応 	<p>【新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 吳港湾新型インフルエンザ検疫措置訓練を毎年実施していたが、新型インフルエンザ等対策マニュアルの連絡・搬送等の確認を書面で開催し、資料提供により確認した。 ○ 新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、令和2年1月から対応の検討を開始した。保健所と対応方針の確認を行った後に、院内で検討を重ね、同年1月30日に新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し、受入れ準備を行った。 以降、令和2年3月25日までに初期対応マニュアル(Ver.2-4)、同年8月21日までに蔓延期以降マニュアル(Ver.3-4)を改訂した。最終更新は令和4年2月8日(職員の接触者及び感染者への対応)、厚生労働省事務連絡等最新情報をマニュアルに追加し職員へ周知徹底した。 <p>【渡航者外来の運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年7月から実施しているビジネス渡航者に対する新型コロナウイルス感染症のPCR検査と証明書の発行を引き続き行った。 (令和3年4月～令和4年3月 PCR検査数：88件) <p>【新型コロナウイルスの感染症患者への適切な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染拡大時には自宅・ホテル療養者等の症状悪化を防ぐため、発熱外来やコロナ陽性者外来の受入体制を強化した。それらに加え、濃厚接触者が増えてきたことから病院玄関前エリアに屋外テントを設置(テント設置は令和4年1月18日から2月22日まで)し、濃厚接触者外来を行った。 			
<u>工 病院機能の有効活用(小項目)</u>	<u>工 病院機能の有効活用(小項目)</u>		3	新型コロナウイルス感染症患者受入病床を除いても、病床利用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2
<ul style="list-style-type: none"> ・広島市民病院からの手術症例の受け入れ強化を行うとともに、地域住民の緊急時の受け入れ強化等に取り組みます。 ・法人における外科系研修医の手術教育施設(トレーニング)として、良性疾患を中心とした手術 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者やMRI検査を待つ患者等の積極的な受け入れや手術教育施設としての外科系研修医の受け入れなど広島市民病院との連携強化 	<p>【広島市民病院との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院から急性期医療を終えた紹介患者を74人受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。 こうした広島市民病院をはじめとする医療機関からの受け入れを推進するため、診療科医師や看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整に努め、運用体制の強化を図った。 しかし、小児科を除く内科・外科の病床利用率は、一般患者の減少とともに、新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために病棟閉鎖を行 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																												
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																											
を行います。		うなど、一般の入院患者の抑制を行ったこと等により、年間平均では 52.5% と目標の 77.9% を下回った。 ○ コロナ禍の下、患者数の減により病床利用率は目標値を下回ったものの、広島市民病院をはじめ、他の医療機関が円滑な通常診療ができるよう自宅・ホテル療養中の陽性者に対する診療やコロナ疑い患者に対する検査を引き受けるとともに「休日夜間のコロナ受入れ輪番」に年間を通じて積極的に協力するなど、舟入市民病院の有する病院機能を最大限活用した。 ○ 広島市民病院との間で共通の電子カルテシステムを使った、MRI 検査の予約を行い、令和 3 年度は、検査を 201 件受け入れた（令和 2 年度は 155 件）。																																
【目標値】	【目標値】	【実績】	【参考】	【参考】	【参考】	【参考】	【参考】																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>82.9</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率	区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	病床利用率 (%)	82.9	85.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>77.9</td> </tr> </tbody> </table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し目標値を設定（以下の目標値において同じ。）	区分	令和 3 年度 目標値	病床利用率 (%)	77.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>76.1</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> <td>51.0</td> <td>52.5</td> </tr> </tbody> </table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）	区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	病床利用率 (%)	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5	<p>【参考】新型コロナウイルス感染症患者受入 病床等を除いて算出した病床利用率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>74.8</td> <td>67.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	病床利用率 (%)	74.8	67.2	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値																																
病床利用率 (%)	82.9	85.0																																
区分	令和 3 年度 目標値																																	
病床利用率 (%)	77.9																																	
区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績																													
病床利用率 (%)	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5																													
区分	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績																																
病床利用率 (%)	74.8	67.2																																
<u>才 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</u> 医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大を図り、障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成を行うなど、障害児（者）の診療相談機能の充実を図ります。	<u>才 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</u> ・医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大 ・障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成	【医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大】 ○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ 441 人であった。新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために、令和 3 年 5 月 17 日～6 月 17 日及び令和 4 年 1 月 21 日～3 月 17 日の間はレスパイトの受入れを 1 床に減らしたが、利用者は令和 2 年度に比べて延べ 191 人増加した。 【障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成】 ○ 協議会や研修会はオンラインで参加した。訪問看護ステーションなどとは交流を図り、知識を深めた。また施設見学は、1 施設から依頼があり見学を受け入れた。 ○ 院内においてレスパイト関係者会議や実務者会議を行い、情報を共有した。																																

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価							
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号						
<p><u>力 人間ドックの充実（小項目）</u></p> <p>市民の健康保持・増進等の観点から人間ドックの充実を図るとともに、特定健康診査・特定保健指導の実施体制を構築します。また、人間ドック機能評価の受審に向けて取組を進めます。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック 健診者数 (人)</td> <td>2,131</td> <td>5,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成28年度実績は被爆者健診断を除いた人数</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	人間ドック 健診者数 (人)	2,131	5,000					
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値									
人間ドック 健診者数 (人)	2,131	5,000									

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

中期目標	ア リハビリテーション医療 リハビリテーション病院は、脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を継続的かつ安定的に提供すること。また、急性期病院と連携し、急性期の疾病治療・リハビリテーションと一体的かつ連続的な回復期のリハビリテーションを実施すること。
	イ 自立訓練 自立訓練施設は、リハビリテーション病院等の医療機関と連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活再構築のための訓練等を行うこと。
	ウ 相談機能、地域リハビリテーション リハビリテーション病院・自立訓練施設は、関係機関と連携して、利用者からの相談を適切に受けられる体制を強化するとともに、退院・退所後の生活を支援すること。また、地域リハビリテーション活動を支援するなど、本市の身体障害者更生相談所等と連携して、リハビリテーションサービスを総合的かつ一貫して提供すること。
	エ 災害医療 リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設	(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設				
<u>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目）</u> 広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを安定的かつ継続的に提供します。	<u>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目）</u> ・中途障害者の社会復帰、社会参加の促進及び生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスの提供 ・3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施と連携強化	<p>【総合的なリハビリテーションサービスの提供】</p> <p>○ 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。</p> <p>【連絡会議の実施等による3施設の連携強化】</p> <p>○ 3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施や、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の各部署の運営責任者等で構成する病院・施設運営会議に広島市身体障害者更生相談所の運営責任者が参加することにより、3施設の連携強化を図った。</p> <p>○ リハビリテーション病院の医師が、広島市身体障害者更生相談所長を兼ね、判定業務などを担当するとともに、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医、相談医を担っている。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価																													
	年度計画	評価理由等				記号	評価理由・コメント等	記号																												
<p><u>イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市民病院、安佐市民病院などの急性期病院との連携強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションを経過した患者を受け入れ、日常生活機能の向上や社会復帰を目的とした専門的で集中的な回復期のリハビリテーションを連続的・一体的に提供します。 ・退院後の患者を中心に継続的なリハビリテーション医療を提供するため、地域医療機関とも連携して、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション・訪問看護など在宅療養への支援の充実を図ります。 <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院である広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・退院支援と地域連携診療の推進 <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）</td> <td>7.9</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>81.8</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p>	区分	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	8.4	在宅復帰率（%）	82.0	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	7.9	8.4	在宅復帰率（%）	81.8	82.0	<p><u>イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・365日リハビリテーション医療の充実 <p>【365日リハビリテーション医療の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平日、土日祝日にかかわらず365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供するため、平成29年度から土日祝日における療法士の平日並み配置を実施し、効果的な回復期リハビリテーション医療の提供に努めた。患者1人当たりのリハビリテーション実施単位数は8.5単位と、目標の8.4単位を上回り、在宅復帰率は85.6%と、目標値(82.0%)を上回った。 <p>【実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）</td> <td>8.4</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>82.0</td> <td>85.8</td> <td>85.4</td> <td>85.8</td> <td>85.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、広島市民病院からは168人、安佐市民病院からは112人の入院患者を受け入れ、全入院患者に占める割合も52.6%と、令和2年度の43.4%を上回った。(令和2年度は広島市民病院から130人、安佐市民病院から80人) ○ 広島市民病院及び安佐市民病院の地域連携担当者とそれぞれ協議の場を設け、相互の情報交換や連携強化を図った。また、スムーズな転院受入れのため、令和元年11月から実施している広島市民病院及び安佐市民病院に向けて空床及び待機状況等の情報提供を引き続き行った。 <p>【退院支援と地域連携診療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者が退院後に地域で療養や生活を継続できるよう、患者一人一人に担当の医療ソーシャルワーカーを充てて入院早期から退院支援を行った。また、地域の医療機関等との連携を進めて転院・退院調整の円滑化を図つ 	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	8.4	8.5	8.5	8.5	8.5	在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4	85.8	85.6	<p>3</p> <p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	<p>3</p>
区分	令和3年度目標値																																			
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	8.4																																			
在宅復帰率（%）	82.0																																			
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																		
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	7.9	8.4																																		
在宅復帰率（%）	81.8	82.0																																		
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																															
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	8.4	8.5	8.5	8.5	8.5																															
在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4	85.8	85.6																															

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<p>・認知症ケアチームによる認知症を合併した患者のケアの推進</p> <p>・排尿ケアチームによる下部尿路機能障害を有する患者のケアの推進</p> <p>・外来リハビリテーション（言語聴覚療法・理学療法・作業療法）・専門外来の実施</p>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療機関と連携した地域連携診療計画（地域連携クリニカルパス）の運用の拡大に努めた（令和3年度適用件数217件、令和2年度に対し39件増加）。 <p>【認知症を合併した患者のケアの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体疾患のために入院した認知症患者に対するケアの質の向上を図るために、入院前の生活状況等を踏まえた看護計画を作成するとともに、多職種による認知症ケアの専門チーム体制を整えてカンファレンス及び病棟ラウンドを週1回実施した。また、認知症ケアに関する研修会を、全職員を対象に実施した。 ○ 高齢の入院患者の支援として、看護師の入院時スクリーニングで抽出された要支援者について、日常生活能力や認知機能、意欲等を総合的に評価するとともにその評価結果を診療や退院支援に活用する取組を令和2年度から開始し、令和3年度も引き続き実施した。 <p>【排尿ケアチームによる下部尿路機能障害を有する患者のケアの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 下部尿路機能障害を有する患者に対して機能回復のための包括的排尿ケアを提供するため、令和2年11月に設置した排尿ケアチームと当該患者の診療を担う医師、看護師等との連携による排尿ケアを実施した。 <p>【外来リハビリテーション・専門外来の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退院した患者に継続して外来でのリハビリテーションを提供するため、従来の言語療法に加え、平成28年度から理学療法及び作業療法を開始し、平成29年度から自立訓練施設の利用者を対象に加えるなど、外来リハビリテーションの充実を図ってきた。さらに、平成30年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟退院後3ヶ月以内の外来リハビリテーションが可能となり、対象者が拡大したことから、理学療法及び作業療法の実施体制の充実を図った。 <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症が収束しない中、5月17日から10月14日の間、外来リハビリテーションの利用制限を行った影響から、同様に外来リハビリテーションを一時休止した令和2年度と同程度の延人数及び実施単位数となった。</p>				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価																																												
	年度計画	評価理由等						記号	評価理由・コメント等	記号																																										
		(外来リハビリテーションの実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語 延人数</td><td>2,074人</td><td>2,327人</td><td>2,409人</td><td>2,181人</td><td>2,293人</td></tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td><td>6,220単位</td><td>6,956単位</td><td>7,209単位</td><td>6,519単位</td><td>6,850単位</td></tr> <tr> <td>理学 延人数</td><td>623人</td><td>1,338人</td><td>1,891人</td><td>1,699人</td><td>1,737人</td></tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td><td>1,916単位</td><td>4,049単位</td><td>5,656単位</td><td>5,074単位</td><td>5,204単位</td></tr> <tr> <td>作業 延人数</td><td>857人</td><td>1,427人</td><td>1,885人</td><td>1,839人</td><td>1,660人</td></tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td><td>2,550単位</td><td>4,271単位</td><td>5,646単位</td><td>5,525単位</td><td>5,052単位</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	言語 延人数	2,074人	2,327人	2,409人	2,181人	2,293人	療法 実施単位数	6,220単位	6,956単位	7,209単位	6,519単位	6,850単位	理学 延人数	623人	1,338人	1,891人	1,699人	1,737人	療法 実施単位数	1,916単位	4,049単位	5,656単位	5,074単位	5,204単位	作業 延人数	857人	1,427人	1,885人	1,839人	1,660人	療法 実施単位数	2,550単位	4,271単位	5,646単位	5,525単位	5,052単位								
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																															
言語 延人数	2,074人	2,327人	2,409人	2,181人	2,293人																																															
療法 実施単位数	6,220単位	6,956単位	7,209単位	6,519単位	6,850単位																																															
理学 延人数	623人	1,338人	1,891人	1,699人	1,737人																																															
療法 実施単位数	1,916単位	4,049単位	5,656単位	5,074単位	5,204単位																																															
作業 延人数	857人	1,427人	1,885人	1,839人	1,660人																																															
療法 実施単位数	2,550単位	4,271単位	5,646単位	5,525単位	5,052単位																																															
		○ 高次脳機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対する専門外来、糖尿病足病変等で歩行に支障をきたしている患者に対するフットケア外来、VF検査による摂食嚥下評価を実施した。 神経難病患者に対する専門外来については、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、短期入院リハビリテーションを利用する神経難病患者が減少した影響により、令和2年度に比べて利用者が減少した。																																																		
		(専門外来の実績(延人数)) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高次脳機能障害外来</td><td>755人</td><td>829人</td><td>983人</td><td>966人</td><td>1,086人</td></tr> <tr> <td>フットケア外来</td><td>65人</td><td>85人</td><td>79人</td><td>68人</td><td>67人</td></tr> <tr> <td>神経難病リハ外来</td><td>—</td><td>—</td><td>37人</td><td>32人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>摂食嚥下評価</td><td>—</td><td>3人</td><td>4人</td><td>1人</td><td>1人</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	966人	1,086人	フットケア外来	65人	85人	79人	68人	67人	神経難病リハ外来	—	—	37人	32人	5人	摂食嚥下評価	—	3人	4人	1人	1人																				
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																															
高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	966人	1,086人																																															
フットケア外来	65人	85人	79人	68人	67人																																															
神経難病リハ外来	—	—	37人	32人	5人																																															
摂食嚥下評価	—	3人	4人	1人	1人																																															
	・訪問リハビリテーション 訪問看護の実施	【訪問リハビリテーション・訪問看護の実施】 ○ 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、平成27年度から医療保険による訪問リハビリテーション及び訪問看護を試行的に開始し、平成28年度からは介護保険適用者にも対象を拡大して実施してきた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ一時的に休止した期間が、令和2年度よりも長期に及んだことから、訪問リハビリテーション及び訪問看護のいずれの実績も令和2年度を下回った。(休止期間:令和2年度 4月20日～5月10日、12月23日～1月24日 令和3年度 5月17日～10月14日、1月6日以降)																																																		

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価																														
	年度計画	評価理由等					記号	評価理由・コメント等	記号																													
		(訪問リハビリテーションの実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td><td>59人</td><td>61人</td><td>49人</td><td>43人</td><td>9人</td></tr> <tr> <td>実施単位数</td><td>177単位</td><td>183単位</td><td>143単位</td><td>159単位</td><td>27単位</td></tr> </tbody> </table> (訪問看護の実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td><td>33人</td><td>40人</td><td>45人</td><td>25人</td><td>21人</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	59人	61人	49人	43人	9人	実施単位数	177単位	183単位	143単位	159単位	27単位	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	33人	40人	45人	25人	21人						
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																	
延人数	59人	61人	49人	43人	9人																																	
実施単位数	177単位	183単位	143単位	159単位	27単位																																	
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																	
延人数	33人	40人	45人	25人	21人																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション活動支援事業等の推進 	<p>【地域リハビリテーション活動支援事業等の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括支援センター等が行う介護予防拠点の立上げ・運営支援や要支援者等に対する介護予防ケアマネジメント支援などに、広島市がリハビリテーション専門職（以下「リハ職」という。）を派遣する等の支援を行う地域リハビリテーション活動支援事業において、地域リハビリテーション広域支援センターとしてリハ職の派遣調整業務を広島市から受託している。 <p>令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う派遣先の事業の休止等により、派遣調整を行った人数は、コロナ禍以前よりも大きく減少した。</p> <p>また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し、令和3年度も引き続き実施した。</p> <p>(リハ職派遣調整業務の実績)</p> <p style="text-align: right;">※（）内は令和2年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>令和3年度 派遣調整人数</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td><td>55人(72人)</td><td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)</td></tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td><td>10人(4人)</td><td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)</td></tr> </tbody> </table> <p>【通所リハビリテーションの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、令和元年10月から介護保険による短時間通所リハビリテーションを実施している。 <p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症が収束しない中、1月6日から3月6日までの間、通所リハビリテーションを一時的に休止し、延利用人数は令和</p>	区分	令和3年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	55人(72人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)	介護予防ケアマネジメントの支援	10人(4人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)																											
区分	令和3年度 派遣調整人数	備考																																				
介護予防拠点整備における支援	55人(72人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)																																				
介護予防ケアマネジメントの支援	10人(4人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)																																				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価									
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号								
		<p>2年度を下回った。(令和2年度の休止期間は4月20日から5月10日及び12月23日から1月24日)</p> <p>(通所リハビリテーションの実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td><td>84人</td><td>182人</td><td>180人</td></tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	84人	182人	180人					
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度												
延人数	84人	182人	180人												
<u>ウ 自立訓練施設の利用促進</u> <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 ・医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 ・施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。 	<u>ウ 自立訓練施設の利用促進</u> <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院と連携した連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実 ・施設利用者の拡大(医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携) 	<p>【連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医として、連続性のある訓練を実施するとともに、医学的リハビリテーションを取り入れるなど、訓練内容の充実を図った。 ○ 高次脳機能障害等のある利用者について、リハビリテーション病院の言語外来リハビリテーションと連携した訓練を実施した。また、医学的リハビリテーションを必要とする自立訓練施設利用者に、リハビリテーション病院の外来リハビリテーション(理学療法、作業療法)を提供した。 ○ 令和3年度の施設利用者94人のうち、外来リハビリテーションを提供した施設利用者の数は46人で、提供回数は延べ1,757回となり、令和2年度と比べて外来リハビリテーションを提供した施設利用者数は増加したもの、提供回数は減少した。(令和2年度 施設利用者数38人、提供回数延1,946回)。 ○ 令和3年度の施設利用者のうち、リハビリテーション病院退院患者は31人で、全施設利用者に占める割合は33.0%と令和2年度と比べて減少した。(令和2年度は35人で、全施設利用者に占める割合は38.9%)。 <p>一方、他の医療機関退院患者は24人で、全施設利用者に占める割合は25.5%と令和2年度と比べて増加した。(令和2年度は14人で、全施設利用者に占める割合は15.6%)</p> <p>【施設利用者の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関、地域包括支援センター、相談支援事業所、行政機関、関係団体等に対して職員訪問(26カ所)、案内文の送付(100カ所)、オンライン施設見学(4カ所)を実施し連携を図った。 <p>これらの取組により、月平均の施設利用者数は、51人となった。</p>		3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3									

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価									市長による評価																			
	年度計画	評価理由等								記号	評価理由・コメント等	記号																		
	・就労定着支援サービスの実施	(施設利用者数の実績)																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成 26 年度</th><th>平成 27 年度</th><th>平成 28 年度</th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th><th>令和元年 度</th><th>令和 2 年度</th><th>令和 3 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数(契約者数)</td><td>38 人</td><td>44 人</td><td>41 人</td><td>41 人</td><td>46 人</td><td>57 人</td><td>54 人</td><td>51 人</td></tr> </tbody> </table>									区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	月平均利用者数(契約者数)	38 人	44 人	41 人	41 人	46 人	57 人	54 人	51 人		
区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年 度	令和 2 年度	令和 3 年度																						
月平均利用者数(契約者数)	38 人	44 人	41 人	41 人	46 人	57 人	54 人	51 人																						
	【就労定着支援サービスの実績】																													
	○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、事業所指定申請を見合わせていたが、令和 4 年 4 月よりサービスを開始することとし、令和 4 年 2 月に申請を行った。																													
<u>エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u>	<u>エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u>	【相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進】									3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3																		
・利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉関係機関と連携した相談機能の充実を図ります。	・利用者の状況に応じた生活支援ができるよう医療支援室及び身体障害者特定支援事業所による相談の実施	<p>○ 医療支援室において入院患者一人一人に担当する医療ソーシャルワーカーを充てて、入院から退院後までの生活上の心配事等について相談に応じた。</p> <p>○ リハビリテーション病院内に平成 27 年 9 月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。</p> <p>○ リハビリテーションをテーマとした市政出前講座は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。医療機関等におけるリハビリテーションの技術支援を目的とした研修会については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、他の地域リハビリテーション広域支援センターの指定病院及び広島県と合同でオンライン研修を実施した。(なお、新型コロナウイルス感染症が収束しなかつたことから、令和 2 年度に続き令和 3 年度も市民公開講座の開催を中止した。)</p> <p>また、身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示を行った。</p>																												
・広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。	・広島市身体障害者更生相談所と連携した地域リハビリテーションの推進																													

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目）</u> 西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMA Tの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。	<u>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目）</u> ・ DMA Tの受入拠点及び広域搬送拠点としての活用についての検討 ・ 後方支援病院としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応	<p>【DMA Tの受入拠点等についての検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMA Tの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、引き続き検討を行った。 <p>【後方支援病院としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の後方支援として、新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者の転院受入を行った（舟入市民病院から 5 人、安佐市民病院から 2 人、広島市民病院から 3 人、県立広島病院から 9 人、ほか県内医療機関から 2 人）。 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大による物流途絶の場合に備え、病院間での調整が行えるよう、マスクなどの診療材料を備蓄した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

